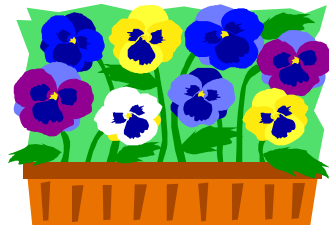


庭とは五感で楽しむことが出来、究極の癒しを与えてくれる空間です。そのような空間をお作りする為にもごく一部ではありますが今月に出来る庭園作りや実際に施工した庭の解説などをご紹介します。参考にしていただければ幸いです。

4月の庭作業

4月の草花の管理



気温の上昇に伴い草花はみるみる生長していきます。花もよく咲き楽しい季節です。咲き終わった花はこまめに摘んでやりましょう。花からは先端部分だけ摘み取るのではなく、花茎を辿って生え際で摘み取ります。放置すると栄養が種ができるほどにとられて花付きが悪くなります。また花がらが葉に付着すると病原菌の発生源にもなるので注意が必要です。

桜の開花を目安に、戸外での種まきも可能になります。花壇に直まきする場合は誤って掘り返したりしないように、種をまいた場所を囲うなど、必ず目印をつけておきましょう。

ムスカリやチューリップなど、秋植えで花の終わった球根植物は、花がらを摘み取って お礼肥え(品名: 花と野菜の化成肥料など)を施します。花がらと一緒に茎葉も摘んでしまうと、光合成ができなくなります。球根を太らせるために、枯れるまで茎葉は残しておきます。春植え球根は、植えつけ適期です。

パンジーやビオラは丈が伸び過ぎて倒れやすくなっています。転ばない程度に軽く切り詰めてあげると形も整うし、脇芽も出て大きな花が咲くようになります。3週間に一度は 化成肥料を少量与えるのもよいです。暖かくなると、病害虫も発生しやすくなるので、防除に努めましょう。なによりも日々の観察が、一番の特効薬になります。病気の発生原因にもなる傷んだ葉や花がらはこまめに摘み取り、害虫は見つけしだい捕殺します。



常緑樹の植替え、植え付け

春の彼岸頃は、植え付け適期です。土に腐葉土を混ぜて植えると、植え付け後の生育が良いようです。庭木の植替えは、少し暖かくなった、春の彼岸過ぎから新芽の出る前が適期です。

植替え時の根の整理...同じ鉢に植えてから長年たった場合の植替えは、原則として古い根を3分の1切り詰めて、3分の2を残します。

植え付けに使用する鉢...鉢を選ぶことは大変重要なことです。選び方を間違えると大事な果樹を枯らしてしまうことがあります。選択の重要ポイント! 浅鉢を選ぶか? 深鉢を選ぶか?

浅鉢の特徴...鉢の中の用土が乾きやすい。従って、過湿を嫌う樹木に向いている。

深鉢の特徴...鉢の中の用土が乾きにくい。従って、乾燥を嫌う樹木に向いている。

また鉢の材質により素焼鉢は鉢土が乾きやすく、プラスチック・陶磁器の鉢は鉢土が乾きにくい。

水やり...4月から10月下旬までは鉢土の表面が完全に乾ききったら、鉢底から水がジャボンジャボン出るように十分水をあげる。

外構工事、造園工事、お庭管理(剪定・消毒・施肥)工事お任せください。お見積もり無料! 詳しくは新井までお問い合わせください。

ウラに続く

外構工事、造園工事、お庭管理(剪定・消毒・施肥)工事お任せください。お見積り無料！詳しくは新井までお問い合わせください。

ハマキムシの駆除(四月上旬)



葉を巻いて袋状、あるいは数枚の葉を綴り合わせてその中に生息し葉や芽、蕾(つぼみ)を食害します。極めて雑食性なケムシの仲間です。発生期間が長いので定期的な薬剤散布が必要ですが、植物の中に薬が入っていく浸透移行性(品名:オルトランDXなど)の殺虫剤が効果的です。また、家庭用殺虫剤でも簡単に駆除できます。ただしスプレータイプを使うときは、30cm以上植物から離して散布してください。

浸透移行性...浸透移行性とは、主に殺虫剤で使われる用語。散布したり、根元に施した薬剤が葉や根からしみ込んで、植物の体の各部に移っていく性質のこと。害虫に農薬が直接かからなくても、食害すると殺虫効果が得られる。一般的に効き目が長く保てる。

サザンカの剪定

花が終わって新芽が動き出す前の三月から四月に行う。花が咲いた枝は葉を2~3枚残して切り詰め、ふところ枝を除くとともに、枚数が多いときは枝抜きをして通風、採光を図る。しかし、生垣など一定の形をつくっているものは刈り込み

最近の施工例

洋風庭園 工事日数5日

ピンコロ(砂岩)を積み、花壇を作り、砂利、レンガを敷き、植栽をするという流れの工事でした。何もないところからのスタートだったので工事が進んでいくにつれ

施工前



施工後

4月のおすすめ植木

サクラ

Prunus spp.

-落葉小高木~高木 -バラ科 -サクラ属

特性

サクラ類は、東アジアの温帯地方に分布しているが、花の美しい自生種が多いことや園芸品種の親になっている種類が多いことにより日本を代表する花として広く知られている。花期は3月~4月。

古くから言い伝わる『桜切るバカ梅切らぬバカ』とは桜は切り口から腐りやすいので、剪定は避けますが、梅は切り口の回復が早いので、かなり太い枝を切っても大丈夫で、樹形を作るためには剪定が欠かせないことを言っているのです。剪定とはそもそも、人間から見て都合良く、樹木の枝を切り払い、見栄えを良くするための物です。だから、梅の木は剪定し、見栄えを良くするのが容易ですが、桜の木は切り口が腐りやすいため剪定をすることで見栄えが悪くなるのです。だから、花見の季節、酔っ払って桜の枝を



5月号予告

5月の庭木の管理
観葉植物の管理
チャドクガの駆除
ツツジの剪定
5月のおすすめ植木「バラ」

外構工事、造園工事、お庭管理(剪定・消毒・施肥)工事お任せください。お見積り無料！！詳しくは新井までお問い合わせください。

モアガーデン造園事業部 担当 新井
住所:足立区西伊興4-3-18モアガーデン

